Om Hrim ritam ⑤

オーム　　スターバカーヤー　　チャ　　　　ダルマシャ

Om sthapakaya cha dharmasya

戻すために　　　　　　～もまた　　　　（霊的な）宗教

サルヴァ　　　ダールマ　　スワルーピネー

Sarva-dharma-svarupine;

すべての　　　　　　宗教　　　　　　　　　化身

アヴァターラ　　ヴァリーシュターヤ　　　　ラーマクリシュナーヤ　　テー　　ナマハー

Avatara-varishthaya Ramakrishnaya te namah

神の化身　　　　　　　最も高い　　　　　　　　　　　　　ラーマクリシュナに　　　　　　　　　　　　敬礼する

オーム　　ナマー　　シュリー　　バガヴァテー　　　　　　ラーマクリシュナーヤ　　　　ナモー　　　ナマハー

Om namah Sri Bhagavate　Ramakrishnaya namo namah

　敬礼する　　　　　　　　　神様、神の化身　　　　　　　　　　　　　ラーマクリシュナに　　　　　敬礼する　　　　敬礼する

＜意味＞

本当の宗教を取り戻すためにお生まれになった、すべての宗教の化身よ。

神の化身の中で最も高い、シュリー・ラーマクリシュナに

私は何度も敬礼いたします。

＜賛歌集の訳＞

おお、ラーマクリシュナ、

普遍的な宗教の設立者、　全世界の宗教の化身よ！

神聖な化身たちの内の最も高いものよ、私はあなたに礼拝を捧げます。

＜語句解説＞

sthapakaya：※1. 取り戻す

dharmasya：※2. 霊的な宗教

Sarva-dharma-svarupine：※3. すべての宗教の化身

Avatara：※4. 神の化身

Varishthaya：※5. 一番高い

Om namah Sri Bhagavate　Ramakrishnaya namo namah：※6.

namo=namah：敬礼する。お辞儀をする。礼拝する。

＜解説＞

「Om Hrim ritam」は、今まで解説してきた①～④までのフレーズは、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダがこの賛歌を作った当初から歌われていました。

しかし、今回のこの⑤の部分はかなり後になって、ある信者の祭壇のオープニングの時に、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダが突然思いついて付け加えました。

後にラーマクリシュナ・ミッションでは、いつも①～⑤までを歌うようになりました。

※1. sthapakaya：（正しい宗教を）とりもどすために…の意味。

世の中に宗教はたくさんありますが「本当の宗教」は無くなっています。シュリー・ラーマクリシュナは「本当の宗教」をとり戻しました。

「とり戻した」というのは、当時宗教とは名ばかりで、宗教ではない実践がありました。

イエスやお釈迦様の「正しい宗教（教え）」も、時間が経つと正しい教えを忘れて、「儀式が宗教」という考え方になってきました。

しかし儀式は宗教ではありません。本当に霊的なものと儀式は違います。

ラーマクリシュナや、他の神の化身が生まれてくる目的はそれです。

神の化身が生まれる時はいつも、皆が本来の宗教を忘れて間違った考えを持っている時です。例えばお釈迦様が生まれた頃は、神様の儀式の中で動物を沢山殺していました。

イエスが生まれた時は、宗教がビジネスのようになっていました。

このように、最初は正しい宗教でも時間が経つと、霊的な宗教とは何なのか皆わからなくなってきます。

そこでラーマクリシュナは「本当の霊的な宗教（教え）」を復活させたのです。

※2. dharma：ダルマ

宗教とは儀式ではなく霊的なものです。では霊的な実践、目的、やり方は何でしょうか？

dharmaとはそれらをすべて合わせたものです。ダルマの普通の翻訳は「宗教」ですが、

ここでは、もっと深い意味を表しています。協会の賛歌集では、sthapakayaは「設立者」と訳されていますが、設立したのではなく、元に戻したのです。

宗教の問題は昔からあります。大事なものを忘れ、そうではないものを大事だと思っている。シュリー・ラーマクリシュナは新しい宗教を創ったわけではありません。

人々の間違いの１つは、本来の宗教を忘れ、間違ったことを実践していることにあります。

もう１つは、ある種の人々は信仰がなくなっていることです。

宗教を疑っていて、宗教は真理ではない、正しくない、想像だと思っていることです。

科学者には信仰がなく、「聖典は嘘で信じない方がいい」と言う現代ヨーロッパの哲学者も結構いて、「悟り」、「魂」、「輪廻」に疑いを持っています。

しかしシュリー・ラーマクリシュナは、「宗教はすべて正しく、想像ではない」と言いました。そのためにすべての宗教の実践をして、「宗教はある」、「神様はいる」、「魂はある」、「悟りは出来る」、「輪廻はある」、とすべて確認したのです。

そして、幸せになって至福が訪れると、苦しみや悲しみがなくなるということも確認しました。

しかしそれを証明できなかったら、信仰はなくなってしまうという大きな問題がありました。

なぜなら、科学者の証明はいつも何らかの道具（instrument）などを使い、それが証明出来ないと、「それはない」と言うからです。そして多くの人は科学者の言うことを信じてきました。ですから、一般的な人々は信仰がなく、「神様はいない」と言ってきたのです。

しかし、信仰がない時間が長く続いたら、人生の幸せを得ることは出来なくなるという大きな問題が出てきます。

その時にラーマクリシュナが現れたのです。

そして「正しい宗教とは何か」を説き、「宗教は想像ではない」と言ったのです。

もう１つ別の問題もあります。

沢山の宗教があり、その１つの宗教の中にも沢山の宗派があります。

例えばヒンドゥー教の中には、ヴィシュヌ派、シヴァ派、タントラ、ヴェーダーンタ、他にも色々とあります。

そしてある宗教は、「他の宗教は間違いで我々の宗教だけが正しい」と言います。

また、様々な宗派の間でも同じことを言っているので、人々は何が正しいのかわからず混乱してしまいます。

例えば、キリスト教一つだけをとっても、カトリックやプロテスタント、カルヴァン派（Calvinism）、[正統長老教会](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%AD%A3%E7%B5%B1%E9%95%B7%E8%80%81%E6%95%99%E4%BC%9A)（プレスビテリアンPresbyterian）、**ルーテル教**会（Lutheran）アングリカン聖公会（Anglican）など、もっとたくさんの宗派があります。

それらはキリスト教から作られたにもかかわらず、それぞれの宗派同士の争いがあります。

仏教の中にもあります。浄土宗、真言宗などたくさん宗派があり、他の宗派のお寺には入らないという狭い考えもあります。

ヒンドゥー教も同じです。ヴィシュヌ派だけが正しい、マザーカーリーを礼拝してはダメ、ヴェーダーンタはない、など、そのような狭い考えもたくさんあります。

しかしこれは間違いです。

※3. Sarva-dharm-svarupine：「すべての宗教の化身」

ラーマクリシュナはすべての宗派を実践し、「信仰の数だけ道がある」と結論を出しました。ラーマクリシュナは全然勉強はしませんでしたが、自分で実践したのです。

しかしすべての宗教が正しいなら、１つの宗教があれば充分ではありませんか？

どうして沢山の宗教が必要なのでしょうか？ 皆がキリスト教やヒンドゥー教徒になってもいいではありませんか。「ラーマクリシュナの福音」の中に、お母さんが魚料理を作る話があります。子供たちの味の好みや消化力に合わせて料理の仕方を変えるのです。

それから、Karta（持ち主）の目的は、世俗的です。暴力やお金と色々ありますが、

本当の宗教の目的は悟りです。

**ラーマクリシュナ・ミッションの理念は「信仰の数だけ道がある」です。**

**一人ひとり趣味や消化能力が違うように、たくさんの宗教は、一人ひとりの「好き」と「消化」に合わせて作られているので、すべての宗教はそれぞれ正しいのです。**

☞「ラーマクリシュナの福音」P479-下段L8

*「さまざまの求道者にあうように、神はさまざまの宗教や教義をおつくりになった。決して、誰も彼もがブラフマンの知識を得られるというものではない。だから形ある神の礼拝が用意されているのです。*

*母親が、子供たちのために一尾の魚を持ち帰ったとする。彼女はその魚の一部でカリーをつくり、一部をフライにし、他の一部でピラフをつくるだろう。決して、子供たち全部がピラフを消化できるわけではない。だから、彼女はまだ胃の弱い子供たちのためには、魚のスープをつくるだろう。その上に、ある者たちは漬けたり揚げたりした魚を欲しがる。好みはさまざまだ。理解力は一人ひとりちがうのである」*

＊ラーマクリシュナが行ったことのまとめ

1. 宗教の間違った実践を正した。
2. 人々の信仰を取り戻した。
3. すべての宗教のやり方で実践をし、自ら悟ることで、他の宗教も正しいと証明した。

※4. Avatara：アヴァターラ。語源はAvataram、神様の化身です。

日本には、神様の化身というアイディアはありませんが、ヒンドゥー教ではその考えが強いです。神様が人間を導くために、神の化身として（この世に）現れます。

Avataraのもとの意味は「上から下に来る、階段を下りる」です。

神様が天国からこの世界に、人間を導くために人間の形と命で現れました。

**アヴァターラ（神様の化身）のしるしは沢山あります。**

1. 神の性質、神聖な性質（Divine Quality）がその人の中に1番表れている。
2. アヴァターラは、「カルマの法則」で生まれたり、死ぬのではなく、

自分の意思で現れています。普通の人は「カルマの法則」で生まれ、仕事をし、亡くなり、輪廻し、また生まれてくる。その輪廻転生が続いていきます。

1. アヴァターラは他の人のサポートのため、他の人を解脱・至福・純粋になるように導くため、束縛からどのように解放するか導くために生きています。自分のためには何もしません。お金をどのようにたくさん稼ぐとか、どのようにして学者になるとか、どのように名声欲を得るのかを導くためでもありません。
2. アヴァターラは亡くなった後でも、さらにもっと名前や教えが広まります。

色々な国に「聖者」がいます。日本にもキリスト教にも有名なSaint（聖者）がいます。その聖者たちは、生きている間と亡くなった後、しばらくは皆さんに覚えられていますが、段々忘れられていきます。歴史の中にも、その生涯が書かれてある聖者もいますが、その聖者を知らない人も沢山います。しかしAvataraは、亡くなった後もっともっとその教えが広がっています。普通の聖者と比べてください。お釈迦様やクリシュナはどの位前に生まれましたか？ 今も広がっています。

1. 聖者とアヴァターラの違いは何でしょうか？

　　 聖者は自分の悟りのために修行をしていますが、アヴァターラは、聖者が悟るのも助けています。

1. そしてアヴァターラは、ある国、ある社会、ある場合、ある時間に生まれますが、

世界中の皆さんのために存在しています。

例えば、シュリー・クリシュナはインドに生まれましたが、世界の皆さんのために生まれたのです。「バガヴァッド・ギーター」は、インドとヒンドゥー教徒のためだけの聖典ではないからです。

1. アヴァターラは宗教ですが、アヴァターラの影響は宗教ばかりではなく、文化・社会・経済・音楽・文学など多くに及びます。

例えば、お釈迦様やクリシュナは、どの位インドの文化に影響を与えたでしょうか。

　　 イエスやムハンマド（マホメッド）のおかげで、どの位文化が豊かになったかを考えてみてください。イエスがいなかったら、西洋の文化、例えば素晴らしいカテドラル教会や絵画はなかったでしょう。なぜならテーマは宗教ですから。お釈迦様もクリシュナも同じです。そして、ラーマクリシュナの影響もそのように段々と始まりました。

※5. varishthaya：「最も高いもの」という意味です。そう言うと誤解が生じるかもしれません。いろいろな宗教がありますので、アヴァターラの中でラーマクリシュナが１番高いというと反対の意見が出る可能性があります。イエスやお釈迦様ではないのかと。

「Om Hrim ritam 」第１回の勉強会でその話がありました。

**なぜラーマクリシュナが“Avatar-varishthaya（一番高い神の化身）”なのでしょうか？**

サットワ、ラジャス、タマスを考えてください。ヴィヴェーカーナンダはこの賛歌を作る時、インドの他の神の化身のことをイメージして、ラーマクリシュナを「１番高い」と言ったのです。キリスト教、仏教、イスラム教のことは考えていませんでした。

では、ヒンドゥー教のたくさんの神の化身の中で、1番有名な神の化身は誰でしょうか？

ラーマとクリシュナです。しかし、ラーマはサットワもたくさんありますが、ラジャスもとても強いです。なぜなら、ラーヴァナを殺さなくてはならなかったからです。ラジャスの性質がないと戦闘は出来ませんから。

クリシュナも同じように、「マハーバーラタ」の時、戦うためにラジャスがたくさん必要でした。

それに対して、ラーマクリシュナの時代には闘いはなかったので、サットワが1番強かったのです。タマスは眠るために必要で、ラジャスも話をする時に少し必要でした。しかし、

ほとんどがサットワでした。

このように、ラーマクリシュナはラーマやクリシュナと比べ、サットワ的な性質が1番表れていたので、「最も高い=varishtha」と言ったのです。

しかし、これはヴィヴェーカーナンダの考えです。ラーマクリシュナ・ミッションのお坊さんの中にも同じように考える人はいますが、他の宗教の人はそのように考えなくてもかまいません。強引に「信じなくてはいけない」とは言いません。

他の宗教の人は、自分の信じる神様が1番だと考えて良いのです。

そうでないと問題が出てきます。

ヴィヴェーカーナンダは自由主義でした。ですから

「シュリー・ラーマクリシュナを信仰しないといけない」とは言わず、

「自分でラーマクリシュナについての印象を作ってください。」

「聖者や偉大な人だと考えても良いですし、我々は何も反対しません」と言っていました。

※6. Om namah Sri Bhagavate Ramakrishnaya namo namaha：

アヴァターラ、神の化身であるシュリー・ラーマクリシュナに敬礼します、敬礼します。